



「がん哲学外来市民学会～2023年の展望」

がん哲学外来市民学会副代表

安藤 潔

皆様、明けましておめでとうございます。

市民学会は昨年設立10年を迎えました。新型コロナ禍のために10周年のお祝い行事などはできませんでしたが、平林かおる先生を中心とした栃木の皆様のご努力によって第10回市民学会大会はハイブリッド形式で開催され、大成功を収めました。

大会参加者数は過去最多であったと伺っております。市民学会のレジリエンスを示すものと思いました。尚、大会の動画をホームページで見ることができますので、参加されなかった皆様もご試聴可能です。

(<https://shimingakkai.org/coment/> 会員限定パスワード：shimingakkai2022)

また次なる10年を構想するために「学会在り方委員会」を発足させ、皆様にご協力いただいたアンケート調査の結果をもとに半年にわたる議論をへて「在り方委員会提言」を作成しました。これも学会ホームページで公開いたしましたので、ご意見をいただければ幸いです。

さて、3年間にわたるコロナ禍によって社会の姿も大きく変わりました。全国のカフェも、従来の集合形式での開催が困難で活動を休止しているカフェ、オンラインで開催を継続しているカフェ、感染に注意しながら少人数の集合形式で活動しているカフェなどさまざまです。

一方でZOOMやSNSの発達はコロナ禍での人びとの繋がりの方を大きく変えています。市民学会もこれらの「文明の利器」を利用して、全国の学会員、認定コーディネーターとの繋がりを今まで以上に活発にしてこの難局を乗り越えたいと計画しています。市民学会の理念「市民学会は、医師、医療従事者、一般市民、学生、中高生など、がん問題に関心を持つあらゆる人々が立場を超えて集う「経験交流」の場でもある。市民の立場に立つ「医療維新」を目指す。」はこれからの10年も変わりません。

ピンチをチャンスに変えてコロナ終息後にはよりアクティビティの高い市民学会となっていることを目指しています。皆さまとともに2023年を素晴らしい1年にしたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

ドキュメンタリー『新渡戸の夢』の完成に向けて

映画監督

野澤 和之

今年は、新渡戸稲造が1933年、カナダのヴィクトリア市のジュビリー病院で死去して90年が経つ。10月15日が命日にあたる。

昨年は、縁あって10月15日、盛岡での命日祭に参加してきた。縁とは不思議なものである。今年の命日までにドキュメンタリー映画「新渡戸の夢」を創ることになった。昨年の暮れには生まれて初めてクラウドファンディングなるものを行った。新渡戸の思想や哲学に共感する沢山の方々がいることを肌で感じる事ができた。がん哲学外来を提唱する樋野興夫先生も青年時代から新渡戸の思想に惹かれた一人だ。前作の「がんと生きる言葉の処方箋」に出てくる言葉の中にも新渡戸の言葉を継承しているものがある。新渡戸は、国際人、農学者、教育者の顔を持ち、武士道と5000円札以外に知られている事が少なく、捉えにくい。それをドキュメンタリー映画にしなければならない。嬉しい逆境ではある。

新渡戸は言う。逆境の善用で精神を鍛えろ！まだまだ精進するしかないようだ。映画では、新渡戸と妻のメリーが、私費を投じて作った遠友夜学校の教育精神を現代に顕彰しようと思う。どんな状況でも人は学問しないといけないという新渡戸は、どんな夢を果たそうとしていたのか？ 新年早々、毎日考えている。餅がのどに詰まるかもしれない。皆様、よろしく申し上げます。

<ご支援のお願い>

映画の製作・広告宣伝のための資金をご協賛いただける法人様、個人様を募集しております。何卒、皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

寄付申込：namiki@filmmaker-viale.com

振込先：三菱UFJ銀行 大泉支店

普 0295965 口座名：ニトベノユメガセイカイインカイ

ホームページ：<https://nitobenoyume.com/>

